

美  
喜



田岡美喜

享年八十八歳

はじめに

この私この私この私  
 のがののののの  
 写真今日期の叔  
 集在及母で  
 叔はてある  
 母故人母田  
 に報にの岡  
 いる負八美  
 るう十喜  
 のと八が  
 思が人して  
 っ大生をか  
 てきをから  
 いく、ん一  
 ます、て年  
 写真集を  
 作りまし  
 した。

父三重  
 金県  
 松度  
 会郡  
 宿田  
 母曾  
 村宿  
 浦一  
 三一  
 女一九  
 一  
 大正  
 十一年  
 一月  
 四日  
 誕生

父は郵便局に勤め、母は評判の働き者。  
 父は客人も多く、夏は水泳、冬はスキー、  
 母は裁縫、習字、読書、音楽、茶道、生花、  
 料理、看護、新橋、資格、とり、  
 休日に英語塾を卒業、俳句、和歌、茶道、  
 生花、師範、免状、送った。  
 休日には五、七、十年、六、十、歳、  
 自宅を建て、田舎生活を楽しみ、  
 専念して、十年、二月、十日、  
 元平成二十一年、八月、十日、  
 元平成二十一年、八月、十日、  
 永遠の旅立ち、八十八歳の誕生日を  
 前日に眠っている。

万壽子





臨濟宗妙心寺派  
大本山妙心寺





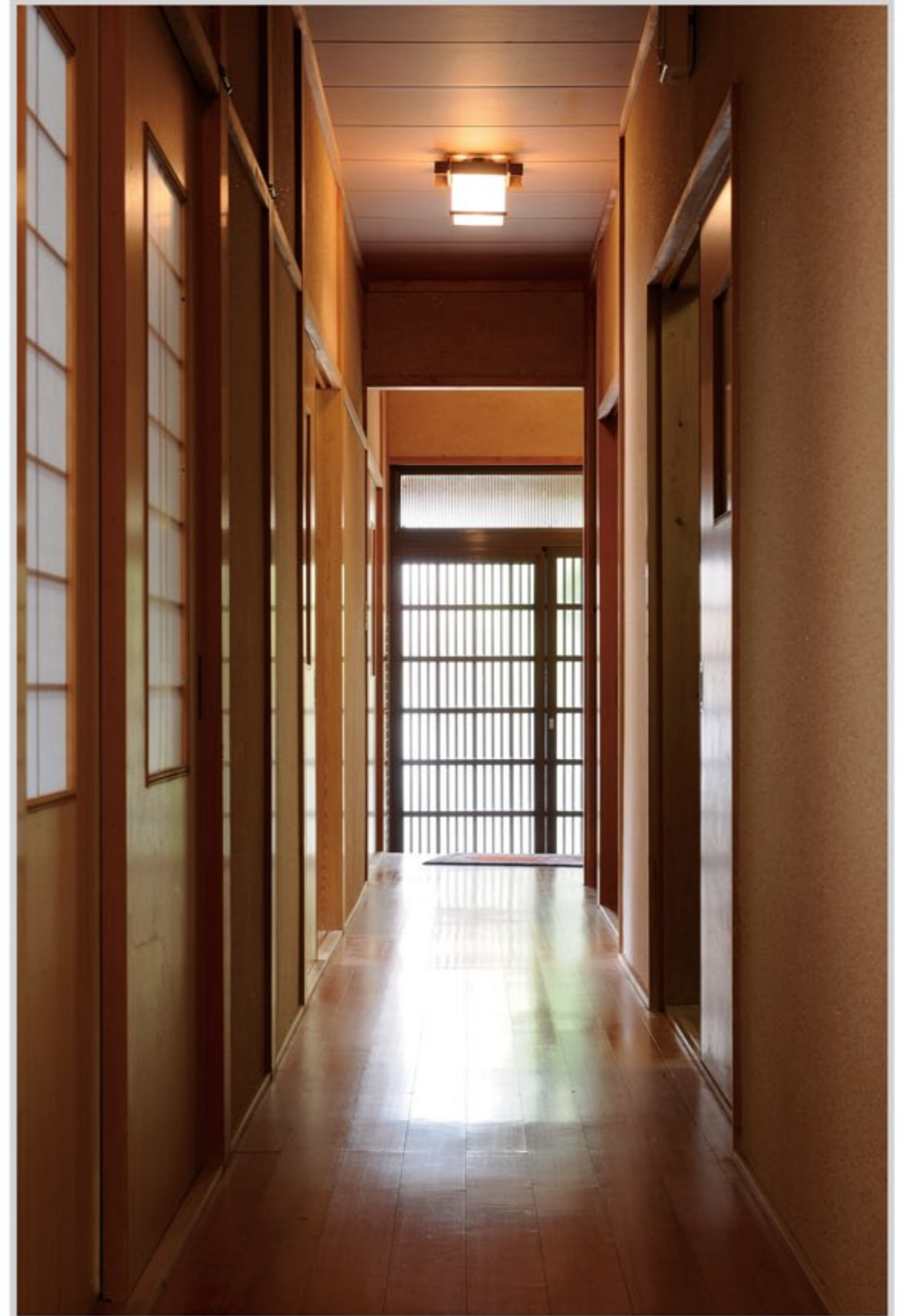


# 住









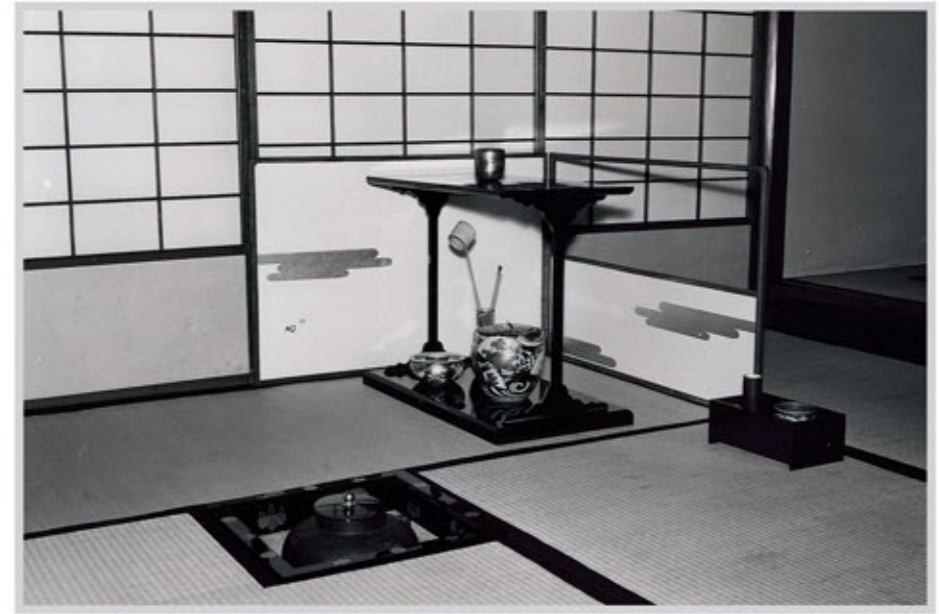
# 想





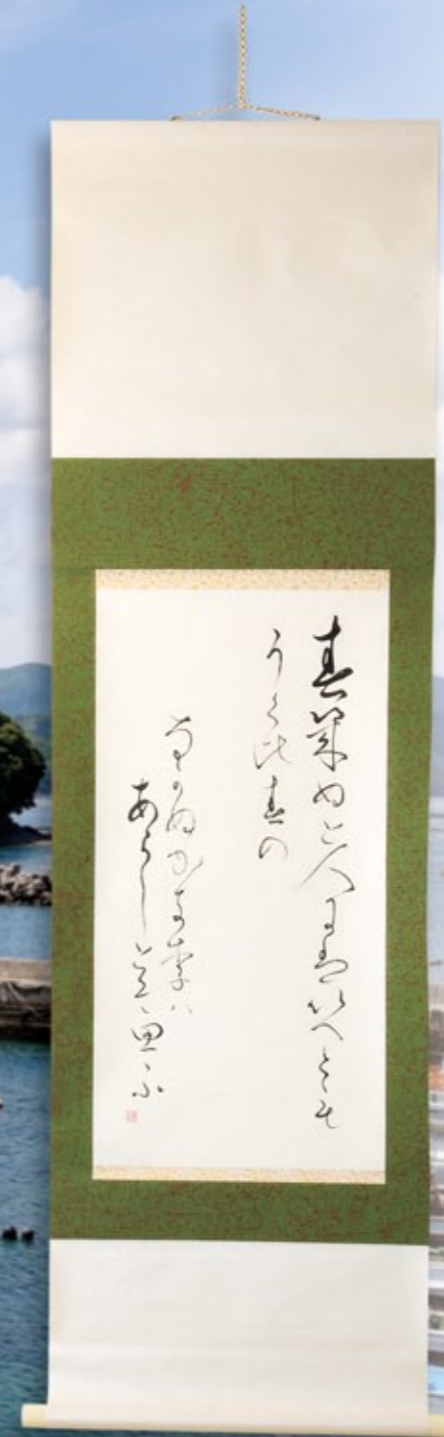
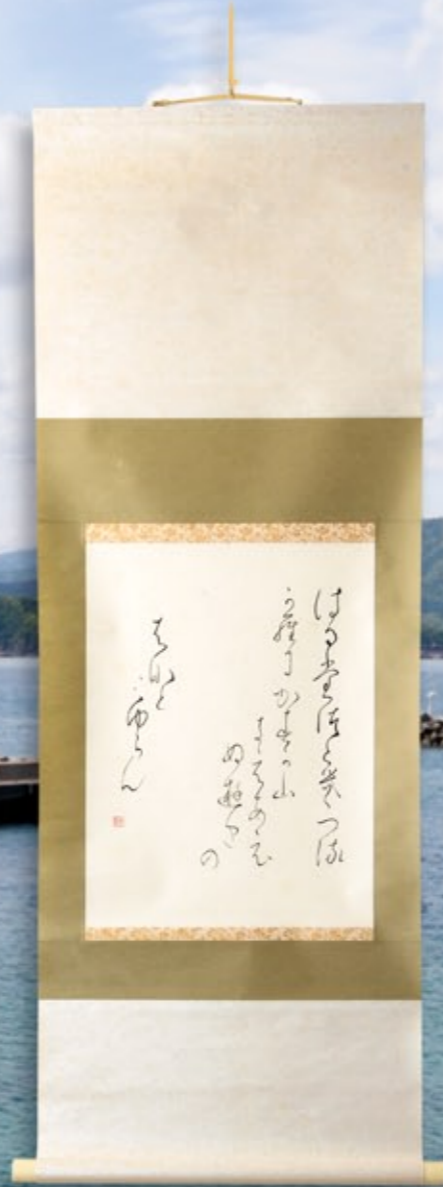
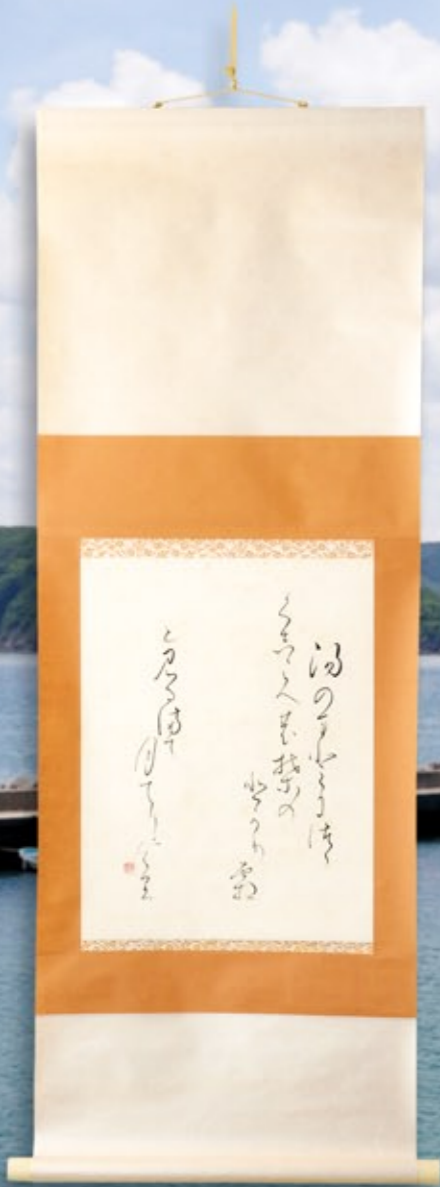
# 茶



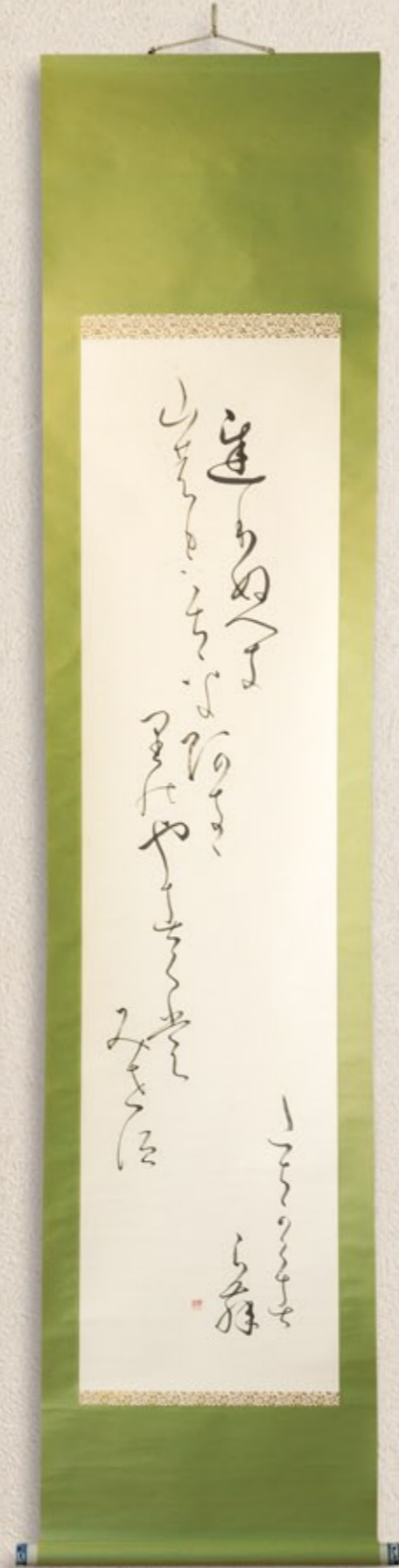
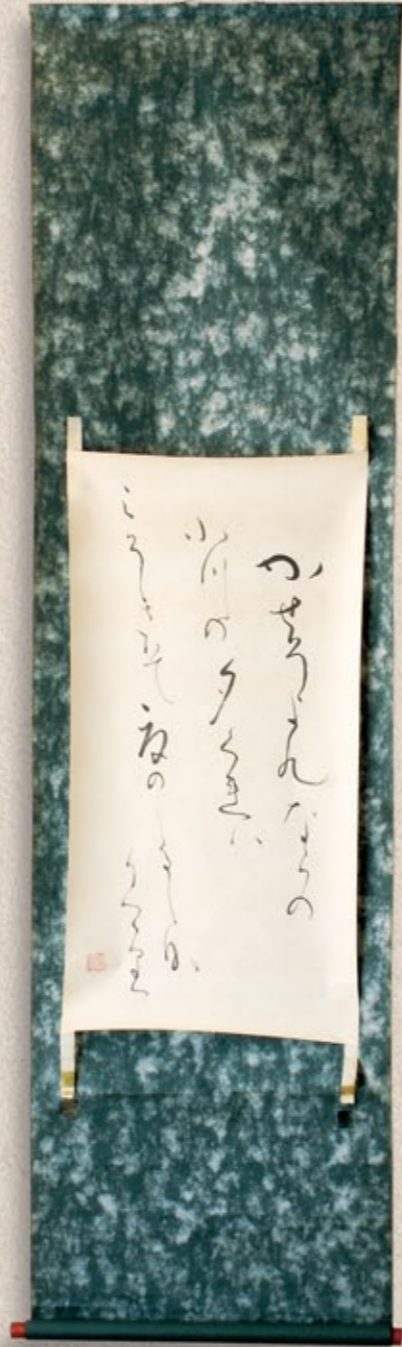
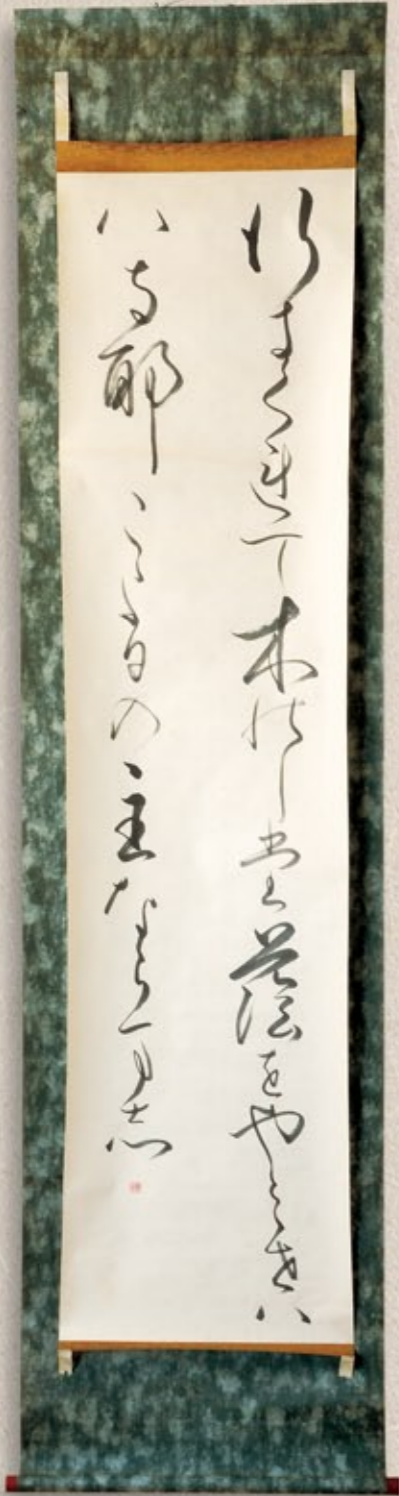


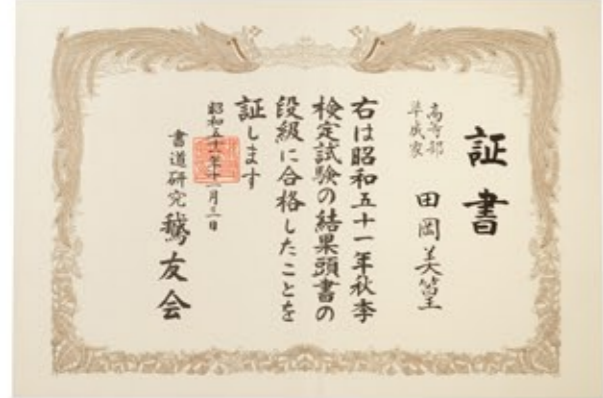
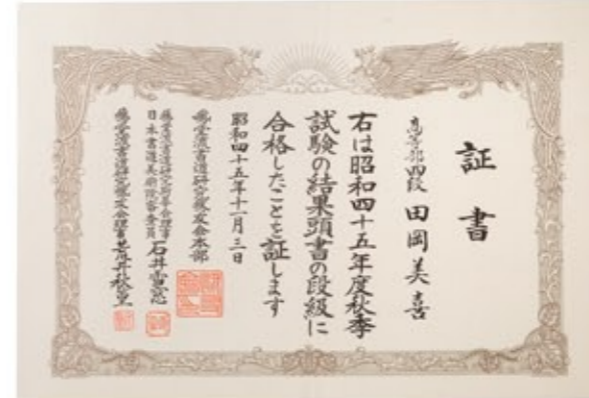
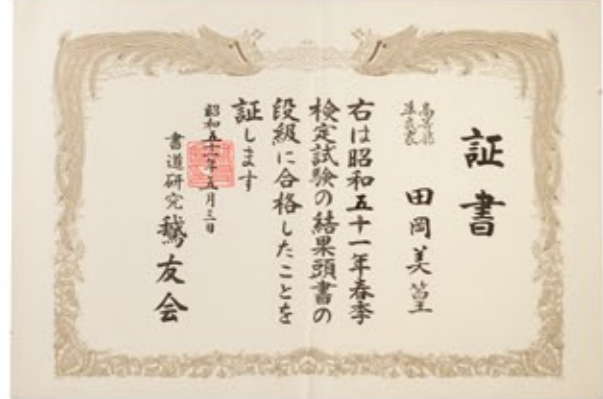
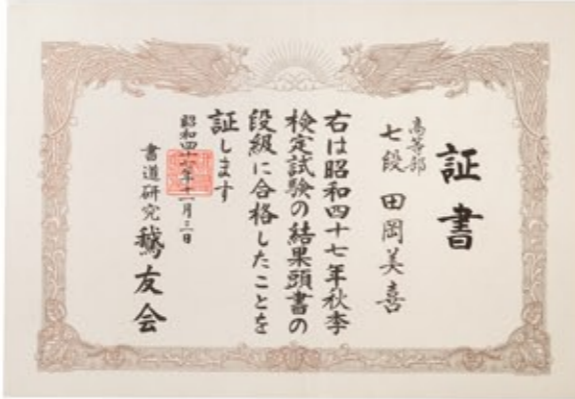
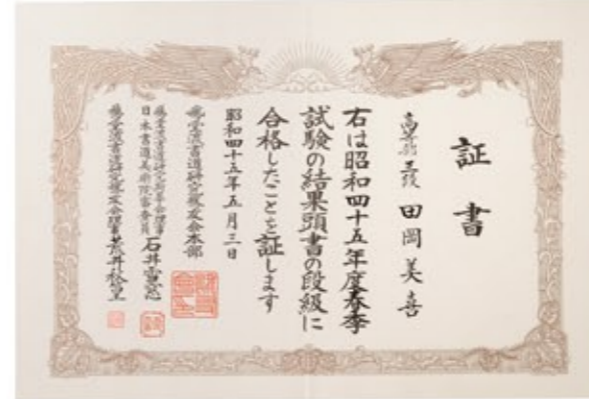
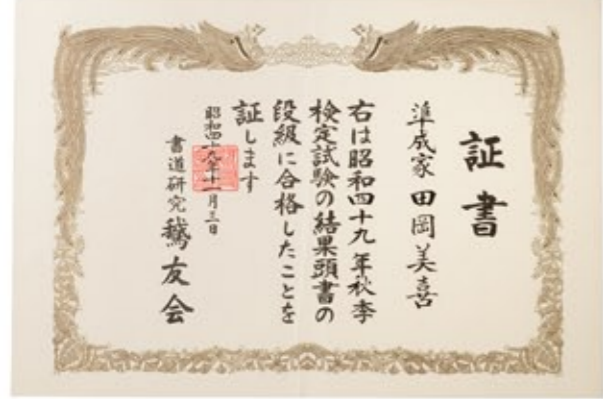
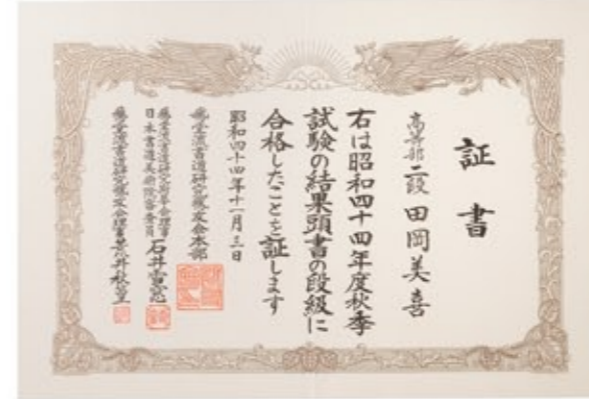
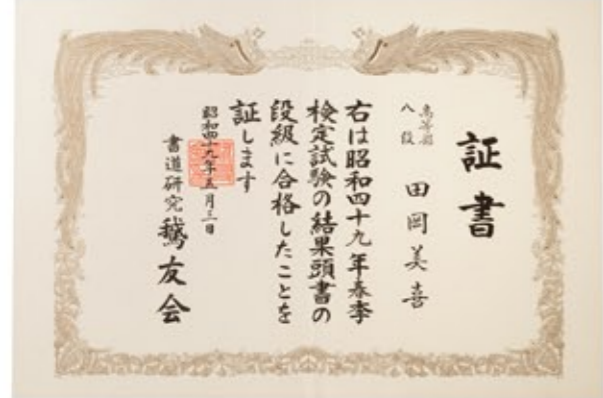


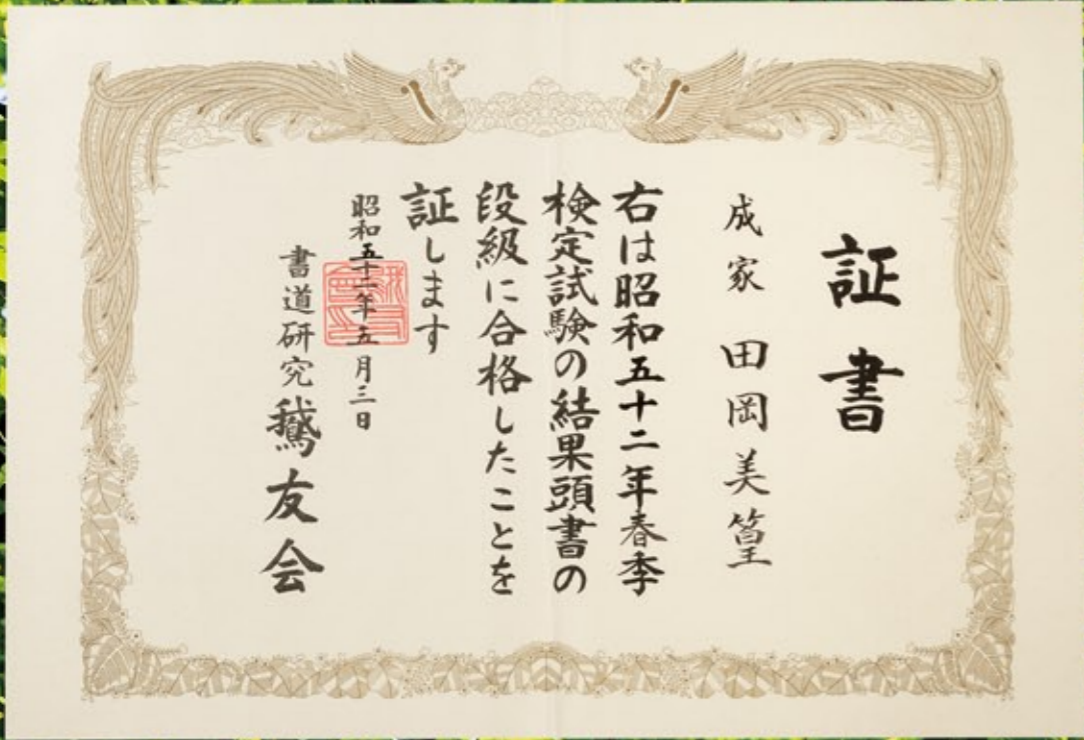
# 書

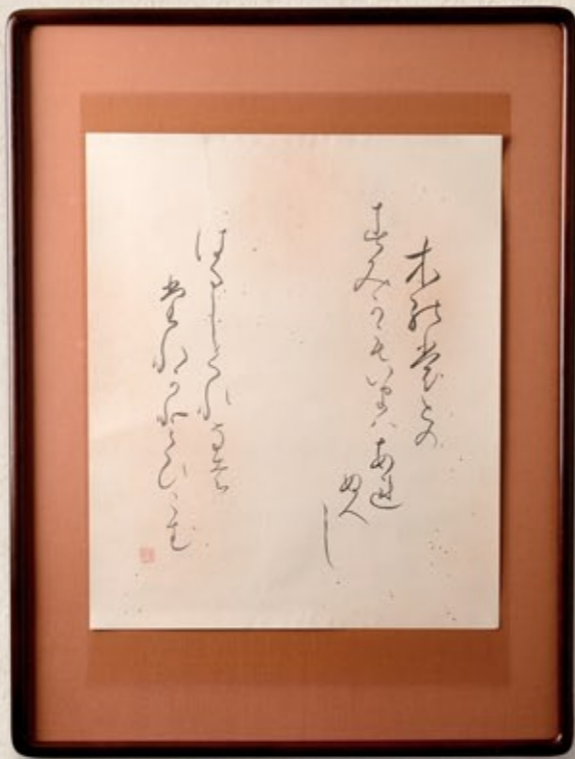


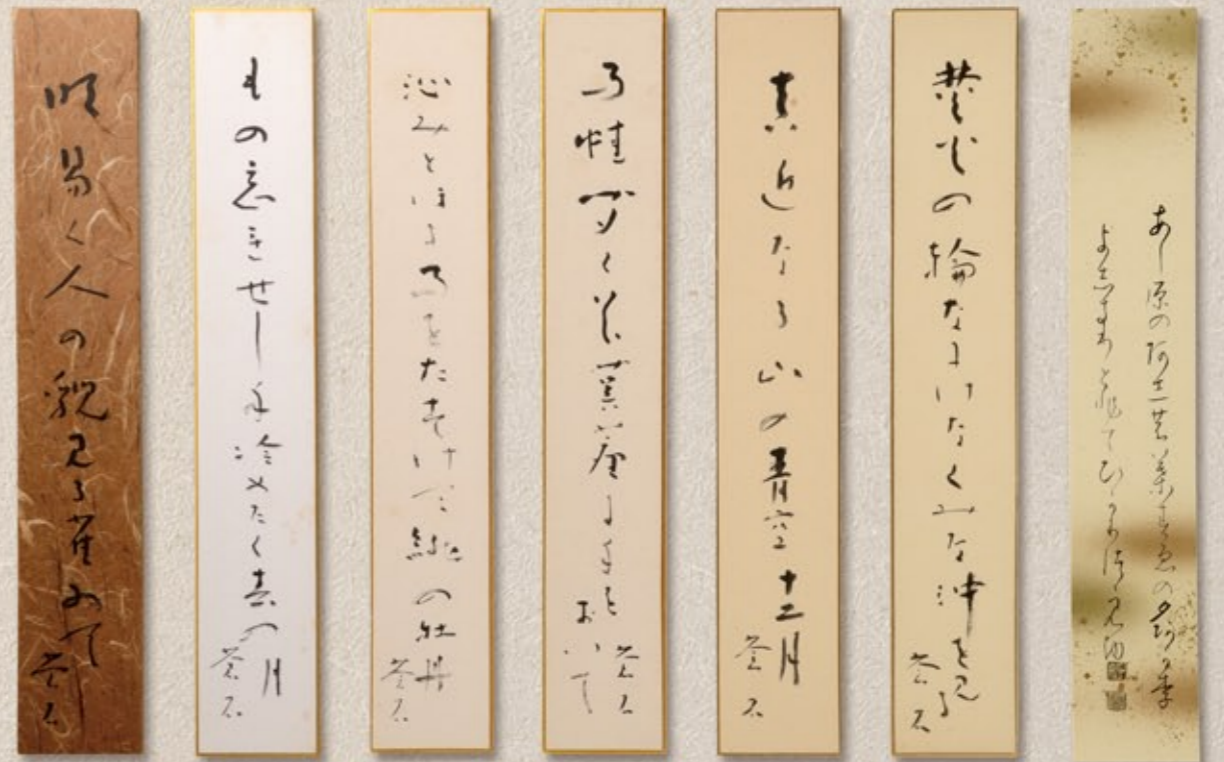
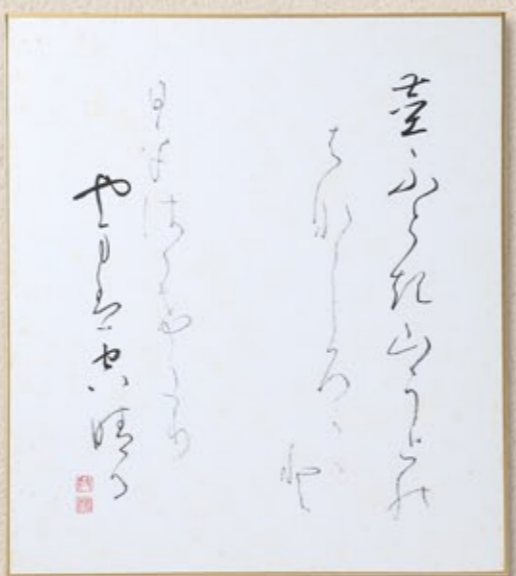
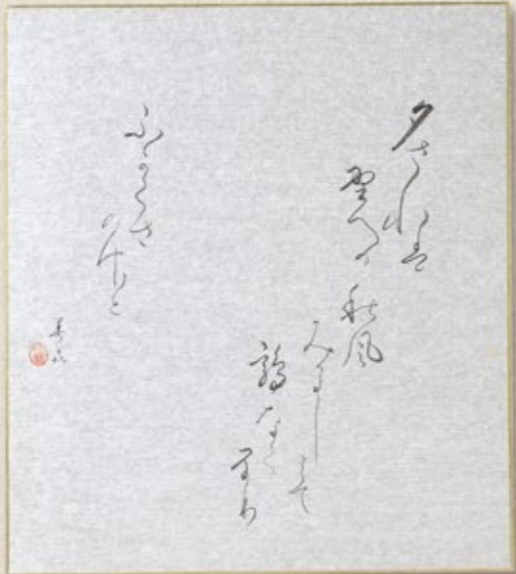
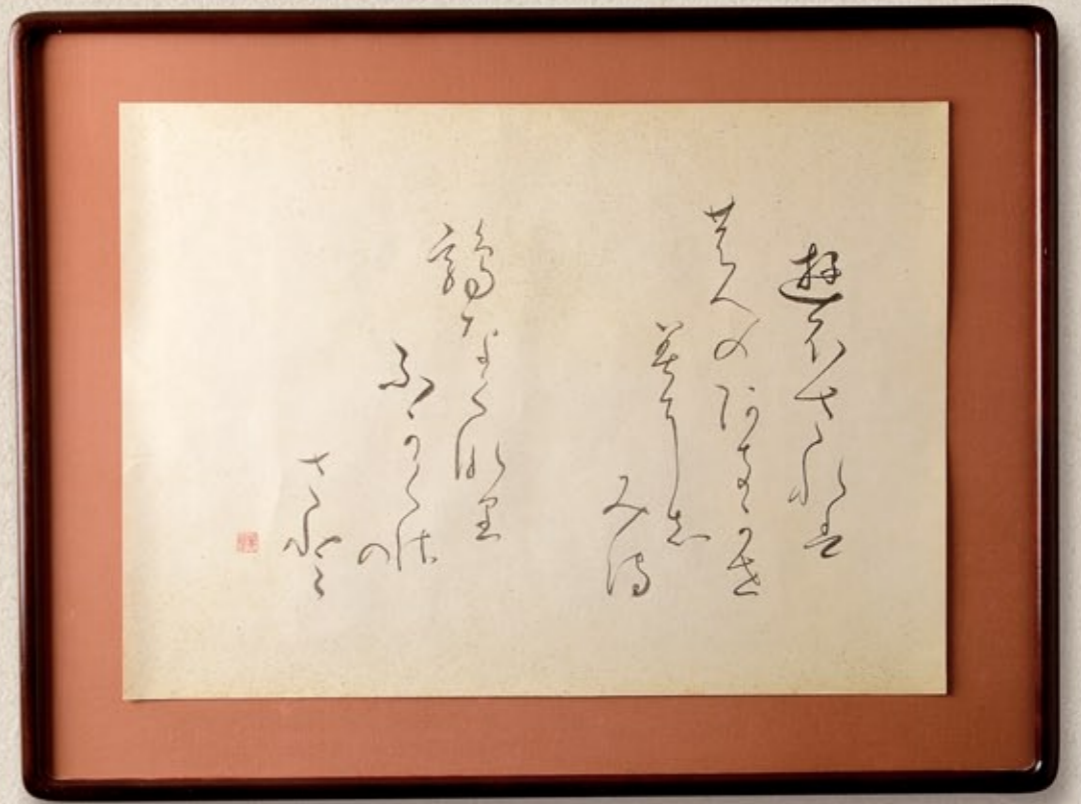
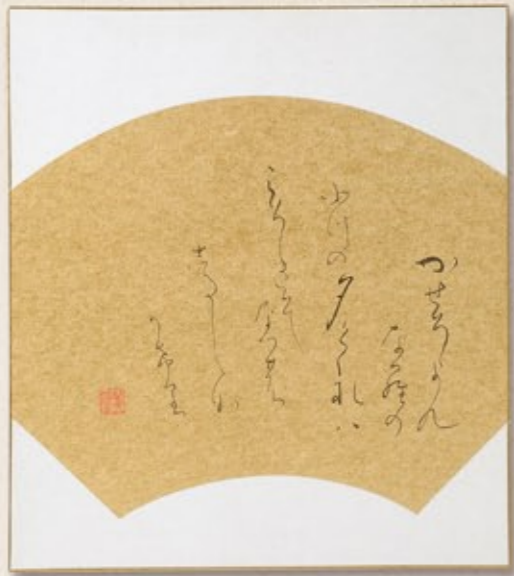












# 生

美喜姉様

あなたは二度と来られない遠い処へ行ってしまいました。私の心の中には強く生きております。只今から何十年來の想い出を掘りおこしてお話しましょう。

私の一才、二才の頃は母が広くやっていた商家に嫁いだため、忙しくて私は里にあずけられたのですが、その時にはあなたが私をお守りをしてくれた様子を色々と聞かせてくれましたね。

あなたは学校を卒業してから東京に住む叔父を頼って東京に出て行かれた後、頑張って慈恵医大の看護師になりました。帰郷された時は弓なりの海岸線の砂浜を二人で語りながらそぞろ歩いたものでしたね。走馬灯のように懐かしく思い出されます。

私たちの家が出来てから帰郷の時は何時も家族として生活しましたね。魚が大好きなあなたは採りたての魚を料理して食べさせると「おいしい、おいしい」と言ってよく食べましたね。

何時のことだか、あなたが都会の水道並みにじゃあじゃあと水を出していたら満理がそれを見て「おばちゃん、水は大事に使わんといけんやで」と言われ、あなたは六歳の子供に注意されたといったこともあったな……。

それから伊勢市の宮川へ桜の花見に言ったり、色々な処へ行きましたね。主人（昭平）の運転で、母と四人で長谷寺にお参りに行き、ボタンの花のきれいさに感動しましたね。帰りによもぎ団子を買ってきて車の中で食べたりして……。

主人は美喜邸が出来るまで自分の家を建てるかのように一生懸命つくりましたのよ。立派な家が出来上がりあなたは大変喜ばれ「この家が出来たのもあなた達のおかげ」と大いに感謝してくれましたね。

帰郷の時はいつも必ず二人の服を買ってきてくれました。私はすぐその場で着て見ていただき、心からお礼を言いました。すると「徳子は大変喜ぶから買ってきた甲斐がある」と言ってくれましたね。

書面では書ききれないほどの想い出がありますが、これで終わりにしましょうね。安らかにおねむりください。

徳子



保健婦免許証  
 田岡美喜  
 保健婦助産婦看護婦法  
 (昭和十五年法律第二十号)により  
 保健婦の免許と與ふる  
 よつてこの証を交付する  
 昭和十五年六月二十日  
 厚生大臣 川崎 秀二  
 厚生省保健婦長官 田岡 美喜

助産婦免許証  
 田岡美喜  
 保健婦助産婦看護婦法  
 (昭和十五年法律第二十号)により  
 助産婦の免許と與ふる  
 よつてこの証を交付する  
 昭和十五年六月二十日  
 厚生大臣 川崎 秀二  
 厚生省保健婦長官 田岡 美喜

看護婦免許証  
 田岡美喜  
 保健婦助産婦看護婦法  
 (昭和十五年法律第二十号)により  
 看護婦の免許と與ふる  
 よつてこの証を交付する  
 昭和十五年六月二十日  
 厚生大臣 山縣 勝見  
 厚生省保健婦長官 田岡 美喜

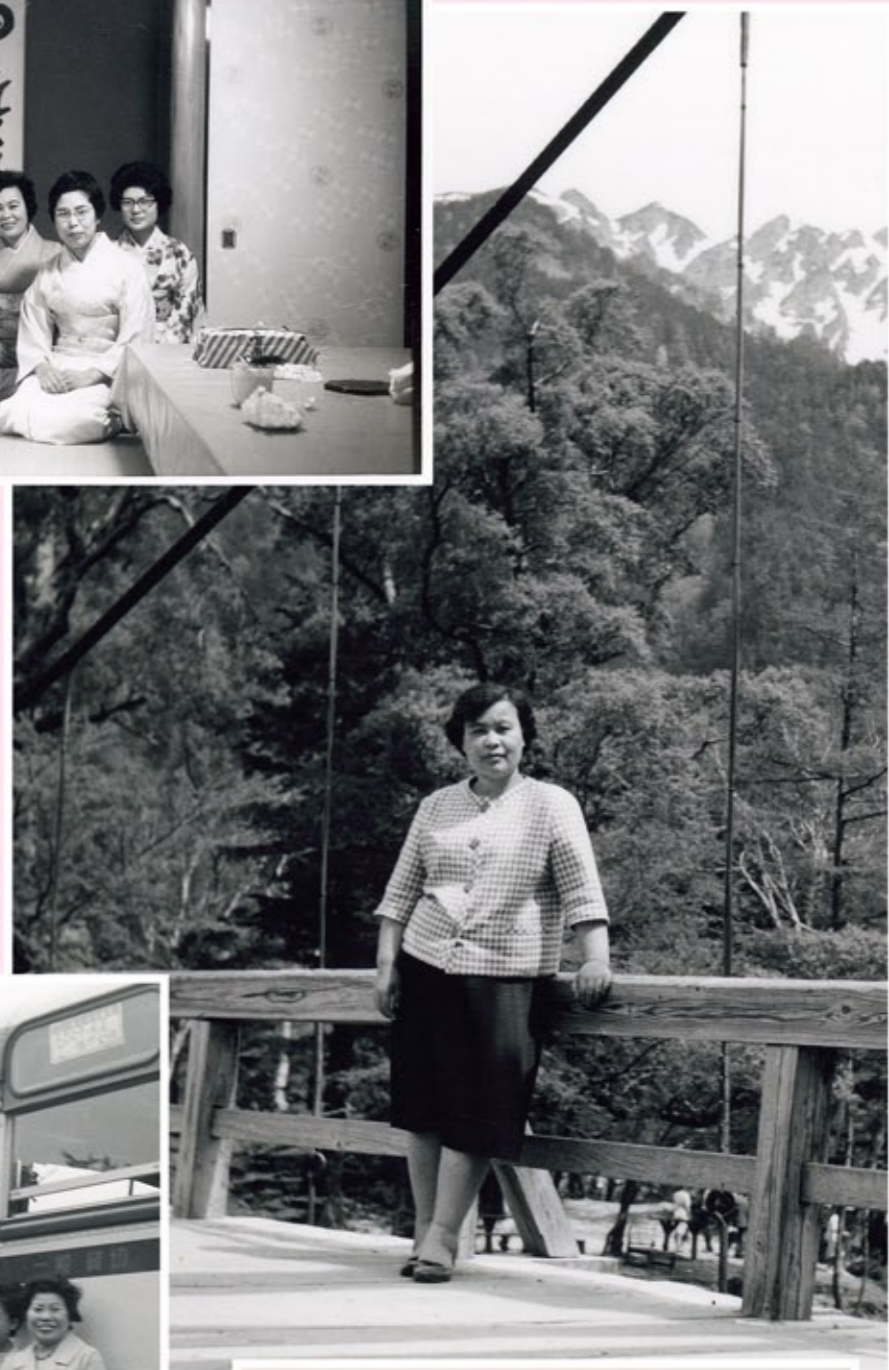
産婆試験合格之証  
 田岡美喜  
 昭和十九年第二回産婆  
 試験ニ合格シタルコトヲ  
 證ス  
 昭和十九年十一月十日  
 東京都庁保健局長 西尾 秀道

修了證書  
 田岡美喜  
 右は本都庁主催の看護婦  
 再教育講習と修了せし  
 ことを證す  
 昭和二十年五月十日  
 日本助産看護婦長官 田岡 美喜  
 東京都庁保健局長 田岡 美喜

合格證書  
 田岡美喜  
 昭和二十年十一月十日  
 昭和二十年十一月十日  
 東京都庁保健局長 田岡 美喜

修了證書  
 田岡美喜  
 あなたは看護婦  
 研修会  
 頭書の課程と履修した  
 ことを証します  
 昭和二十年十月七日  
 国立女子大学 校長 久留 勝





箱根廻遊記念 於山のホテル 昭和36年8月11日



フワフワポート  
のりば  
乗船口







## あとがき

美喜叔母に初めて会ったのは昭和二十九（一九五四）年十二月、高校二年の冬休みでした。家は台風で破壊し、大変な時、長年耳だれを患っていた私が慈恵医科大学病院で治すため上京した時でした。

その後昭和三十三年四月、私が大学に進学してから、年に数回程度は慈恵病院の寮で会っていました。美喜叔母は定年退職近くになって常磐線の北小金にマンションを購入し、休みの日は悠々自適の生活を送っていました。

そうした頃、田舎にいる二人の叔母が妹である美喜叔母の住まいを根城にして、東京見物をしていました。ところが明日帰ると言う晩に、ゆき叔母は心臓発作で急逝してしまっただけです。

美喜叔母はこの住まい（北小金）に住めなくなり、どうせ引越すなら、狛江に来て万悟と住んではどうかと薦めて、住むようになったのが西野川の天野マンションです。（一九八二年）

一九九八年に天野さんのマンションが売却されることになり、私達のいるマンションに移り生活していました。田舎にはお盆と正月に私どもと一緒に帰るようになりました。

写真集を作るといふので、これに合わせてその写真を見ると、勤めている時も職場の同僚や友達、定年退職してからはお茶の会員と旅行をしているのが結構多くあります。これらを連ねて叔母の人となりを理解する一助になると思います。

美喜叔母は言葉少なく、最初はとっつきにくい印象でした。寮に行つて会う時は大変なご馳走で歓迎してくれました。

美喜叔母は戦争の犠牲者とも言えると思います。結婚もできず、長い間看護師をしながら趣味のお花、お茶、書に親しんできました。

これが美喜叔母の人となりを示すものだったと思います。残した物を皆さんにも観ていただき、お収めいただければ幸いです。

平成二十二年 初秋

万里

## 故 田岡美喜の経歴

- 大正十一年一月四日 三重県度会郡宿田會村大字宿浦一一一九ノ一に生まれる
- 昭和二年四月 宿田會尋常小学校入学
- 昭和八年四月 宿田會尋常高等小学校入学
- 昭和十年三月 宿田會尋常高等小学校卒業
- 昭和十四年頃 叔父万五郎を頼って上京
- 昭和二十七年十二月二五日 越惠会付属大学病院看護学校に通う  
看護師の資格を取得
- 昭和三十年三月 越惠会付属大学病院勤務
- 昭和三十七年一月 津田塾英語学校に学ぶ
- 昭和三十七年一月 錦城高等学校（夜間）卒業
- 昭和三十七年一月 お花師範の免許を取得
- 昭和五二年五月三日 お茶師範の免許を取得
- 昭和五七年三月 書道師範の免許を取得
- 平成二十一年十二月二七日 定年退職
- 逝去



produced by **Arm Hall**